

2010.1.15(金)

徳島新聞

徳島未来図

▷8◁

「血液検査の結果がい 止を余儀なくされた。1 を担当している。さらに いので、薬の量も減らせ 月から内科医1人が加わ るのですね」。1月上 り7人になったものの、 応援診療を受け、医師の 旬、徳島県立海部病院 救急受け入れ再開のめど 不足を補っているのが現 (牟岐町)の内科外来。 は立っていない。一刻を 状だ。 同町の出羽島から連絡 争う患者を1時間以上か 政府は10年度当初予算 船で通院している東田包 美さん(88)に、徳島大学 大学院地域医療学分野の 谷藤浩教授が笑顔を向け た。難病の膠原病を患 いた東田さんは「こうして 元気でいられるのは先生 のおかげ」と喜ぶ。 地域医療崩壊の危機に 直面した県は07年10月、 改定に踏み切った。増額 深刻な勤務医不足が続 徳島大に委託して海部病 院内に「地域医療研究セ ンター」を開設。谷教授 急や産科、小児科、外科 は、異動退職で3分の が毎週水曜日、西條敦郎 などに手厚く配分する方 針を示している。 1に減り、08年4月から 助教が火く金曜日にセン ターで勤務し、内科診療 十曜日の救急受け入れ休

地域医療

案で、自公政権が進めて きた社会保障給付費の抑 制路線を転換し、10年ぶ りとなる診療報酬の増額 案で、自公政権が進めて きた社会保障給付費の抑 制路線を転換し、10年ぶ りとなる診療報酬の増額 案で、自公政権が進めて きた社会保障給付費の抑 制路線を転換し、10年ぶ りとなる診療報酬の増額

産科など勤務医不足 県東部集中の解消 課題



(政権公約)では「医師 数の1・5倍増」を掲 げ、10年度の医学部定員 「地域医療再生計画」に は過去最高の8846 も、医師の養成・確保対 人、徳島大は7人増の1 策や県東部、西部への診 療支援が盛り込まれた。 12人となる。 国の臨時特例交付金 これに伴い県の医師確保

勤務医不足が続く県立 海部病院で診療に当た る徳島大大学院の谷教 授(牟岐町) 好(三好市)、中央(徳 島市)の県立3病院へ新 とられない総合診療医 医師の地域偏在、診療科 部に3分の2が集中する 医師の地域偏在、診療科 部に3分の2が集中する 医師の地域偏在、診療科 部に3分の2が集中する

対策は、09年度の約2 億9千万円から大幅に増 える見通しだ。 早ければ4月にも徳島 大に開設される地域医 療、産婦人科、外科、救 急の四つの「寄付講座」 寄付講座は、地域医療 期、救急など医療崩壊の ける仕組みの構築には、 行政と大学、医師会の連 携も不可欠だ。 (政治部取材班)